



大河ドラマ「鎌倉殿の13人」のラッピング電車。令和5年1月15日(日)まで蕪山時代劇場の大河ドラマ館の入場券がついたセット乗車券も販売されています。

伊東市を舞台にしたアニメ「あまんちゅ！」のラッピングバス。熱心なファンがラッピングにかかる費用を集め、東海バスに要望したことで実現しました。平成28年8月に運行を開始し、現在は計2台が伊東市内を走行中です。



修善寺駅—河津駅間、修善寺駅—亀石峠間で運行しているサイクルラックバス。バスのフロント部に2台、バス車内に1台の自転車を積載することができます。予約は不要で、無料で利用することができます。

東海バスの全路線バスに導入された交通系ICカード。バスへの乗降時、端末にカードをタッチすることで、カードにチャージされた金額から乗車賃が支払われます。お釣りが発生しないため、バスの停車時間を短縮することができます。



とまります
お降りの方は
このボタンを
押してください



ビアガー電車・ハロウィン電車・バレンタイン電車など様々なイベント電車を運行中です。



日曜日夕方の国道136号。県内ナンバーと県外ナンバーが行き交い、混雑しています。

今

NOWADAYS
公共交通<マイカー

昭和35年(1960)に国道136号が大仁まで開通し、昭和39年(1964)には伊豆スカイラインが開通、昭和40年(1965)には主要地方道沼津伊東線が開通しました。あちこちに道路が開通することで、公共交通の選択肢は鉄道だけではなく、路線バスも増えていきました。また、かつては一部の人がしか持てなかった自動車も、次第に庶民の手が届く価格になっていき、今から50年ほど前の昭和40年代後半には全国的なモータリゼーション(車社会化)、マイカーブームが到来しました。駅や停車場を介さなくてはならない「不便」な公共交通に対し、自分の行きたい場所まで快適に行ける「便利」な個別交通(自動車)。そして「一家に一台」だった自動車は、平成の頃には「一人に一台」となり、道路や駐車場は、自動車で埋め尽くされる時代となったのです。

しかし、個別交通が増大するという

ことは、公共交通の利用者が減っていくことです。日本の公共交通は、営利を目的とする民間企業が経営しているため、お客さんが乗らなければ路線や経営を維持できません。ほとんどの都市において公共交通事業の経営状況は赤字であり、全国的には運営の危機に陥っている企業もあります。

令和の現代、公共交通はかつてのような「誰もが必要とする」時代ではなくなつたため、市内の公共交通事業者は、「誰かに必要とされる」ための努力と変革を続けています。

自動車保有台数の推移

